

群馬の畜産 みんなの情報室

第361号

発行日
令和6年7月31日

発行:公益社団法人 群馬県畜産協会
〒379-2147 前橋市亀里町1310 群馬県JAビル 3階/TEL:027-220-2371 FAX:027-220-2372
ホームページ:https://chikusankyokai.or.jp



会長就任挨拶

公益社団法人 群馬県畜産協会
会長 林 康夫

日頃から群馬県畜産協会の運営並びに業務の推進につきまして、特段のご理解とご協力を賜り、心から感謝を申し上げます。

去る令和6年6月27日に開催いたしました、第81回定時総会、並びに第57回理事会において、役員任期満了に伴い新役員が選任されました。新体制のもと決意を新たに、本県畜産業の健全な発展のため、全力で諸課題に取り組んで参ります。

さて畜産を巡る情勢につきましては、国際情勢の悪化、円安、世界的な穀物需要の増大などの要因により、配合飼料等の価格高騰が長期化し、畜産経営は生産コストの高止まりにより所得が大幅に減少しており、大変厳しい状況が続いています。

また、家畜衛生では、豚熱や高病原性鳥インフルエンザに加え、近隣国を含むアジアで広く浸潤しているアフリカ豚熱、口蹄疫についても、我が国への侵入リスクが高まっており、家畜伝染病の発生防止に万全を期す必要があります。

本会としましては、こうした状況を踏まえ、中核を担う畜産経営体が持続可能な経営が出来るよう、行政及び関係団体と連携しながら、喫緊の課題である家畜・畜産物の価格安定対策をはじめとする経営支援のほか、生産振興及び衛生対策などの課題に迅速に対応して参る所存であります。

生産者をはじめ、関係機関・団体の皆様におかれましては、今後とも本会に対する特段のご支援・ご協力をお願い申し上げます、ご挨拶とさせていただきます。

目次

会長就任挨拶	1	ヤギの巡回登録・山羊の視察研修について	8
令和6年度の役員体制の紹介	2	国際養鶏養豚総合展（IPPS）2024について	9
令和5年度の事業報告並びに貸借対照表、正味財産増減計算書が承認されました	2	群馬県養鶏協会たまごフェスタ2024を開催	10
令和6年度ブロック別支部長・審査員合同協議会及び審査研究会の開催	6	事業統括の紹介	10
令和6年度群馬県学校農業クラブ連盟主催 家畜審査競技大会の開催	6	価格安定事業の発動状況	11
令和6年度前期乳牛体型調査・牛群審査について	7	市況	11
第28回群馬県畜産共進会の案内	7		
2024セントラルジャパンホルスタインショウについて	7	みんなで行こう！ケイバ！南関東4競馬場開催日程	12

令和6年度の役員体制のご紹介

任期満了（令和5～6年度）に伴い、第81回定時総会にて役員の改選が行われ、また第57回理事会におきまして、役付理事が決定しました。

1 役付理事

会 長 林 康夫（再任）群馬県農協中央会・各連合会会長
副 会 長 天笠 淳家（再任）群馬県農業協同組合中央会副会長
副 会 長 今井 祥丈（新任）群馬県農政部米麦畜産課長
専務理事 富田 孝（再任）学識経験者

2 理事

中里 昌弘（再任）株式会社群馬県食肉卸売市場代表取締役社長
小野 和則（再任）群馬県農業共済組合専務理事
矢内 功（再任）学識経験者
矢端 幹男（新任）前橋市農業協同組合代表理事組合長
奥木 隆人（再任）あがつま農業協同組合代表理事理事長
新井 順一（新任）新田みどり農業協同組合代表理事組合長
松下 洋一（再任）群馬県市長会課長
河野 哲也（再任）群馬県町村会事務局長
高瀬 淳一（新任）群馬県養豚協会会長
都丸 高志（再任）群馬県養鶏協会会長
南 雄司（再任）群馬県 JA 繁殖和牛部連絡協議会会長

3 監事

櫻井 英俊（再任）全国共済農業協同組合連合会群馬県本部運営委員会副会長
大久保克美（再任）東毛酪農業協同組合代表理事組合長
桜井 正喜（再任）群馬県家畜商商業協同組合理事長

どうぞ、よろしくお願いいたします

令和5年度の事業報告及び貸借対照表、正味財産増減計算書が承認されました



去る、令和6年6月27日に、本会の全正会員が出席され、第81回定時総会が開催されました。6月13日に開催された第56回理事会において、承認いただいた令和5年度の事業報告について報告を行ったほか、令和5年度の貸借対照表及び正味財産増減計算書について、承認いただきました。その概要をお知らせいたします。

1 令和5年度の実施事業の実績について

令和5年度においては、公益目的事業74事業、収益等事業14事業の合計88事業を実施しました。新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行し、国内の人の動きやインバウンドの回復など、徐々に新型コロナウイルス感染症まん延前の生活が戻りつつある一方、牛肉需要の減退に伴う牛枝肉価格の低迷、肉用子牛価格の大幅下落のほか、国際的な穀物需要の高まりや、ロシアによるウクライナ侵攻の長期化、為替変動などを背景に、配合飼料価格等は最高水準で高止まり、畜産経営は厳しい状況が続きました。

家畜衛生については、令和6年1月に県内で高病原性鳥インフルエンザが1例確認されましたが、豚熱の発生はなく、群馬県や関係機関等が連携して防疫対策強化への取組みの浸透と、畜産生産者の家畜衛生に対する意識が更に向上した一年でした。

本会としましては、畜産専門機関としての役割を十分に発揮できるよう、職員一丸となり全力で業務に取り組み、概ね計画どおり事業を実施しました。

公益目的事業のうち、畜産経営の安定を図る事業（7事業）においては、前年度に引き続き、牛肉価格の低迷や、為替相場の円安、配合飼料価格等高騰の影響により生産コストが上昇し続けており、「肉用牛肥育経営安定交付金制度（牛マルキン）」では、肉専用種で通年、交雑種、乳用種で9か月発動し、昨年度の2.7倍強の14億6,000万円の交付金を交付しました。

「肉用子牛生産者補給金制度」では、和子牛価格の大幅下落により21年振りに第2・3四半期で発動し、乳用種の前年第4四半期分を含め、本制度に登録された販売及び自家保留した子牛に対し補給金4,939万円を交付しました。

また、令和5年5月以降の和子牛価格の大幅な下落を踏まえて、臨時措置された「和子牛生産者臨時経営支援事業」では、発動基準価格を下回った肉用子牛生産者補給金制度の登録・販売牛に対し、1,623万円の支援交付金を交付したほか、肉豚経営安定交付金制度（豚マルキン）の円滑な事務の実施を図り、本県の畜産経営のセーフティネットとしての役割を果たしました。

畜産経営の向上を図る事業（27事業）は、畜産経営の高度化に必要な情報提供や個人経営から企業的経営等の多様なニーズに対応した経営指導、一般消費者への畜産に対する理解醸成、畜産特別資金等の指導事業を継続的に行ったほか、安全で安心な国産畜産物の生産、畜産農家が求める経営・技術に有用な情報の提供、畜産クラスター事業の機械導入事業の県窓口として、クラスター計画に基づく導入申請等へのサポートやアドバイス、優良な経営管理技術を有する経営体の経営成果等の調査を行いました。

また、畜産経営における人材確保と労働力の負担軽減、酪農及び肉用牛経営の飼養管理技術の高度化並びに省力化を図る畜産ICT機械等の活用を支援、畜産経営に参画する女性を対象とした研修会の開催、第三者経営継承に対する支援、酪農ヘルパー組織の維持や要員確保、傷病発生時等の酪農ヘルパー利用の相互扶助を図る互助会の運営等を行いました。

このほか、産業動物獣医師として県内に勤務を希望する獣医学生に対し修学資金を給付したほか、新たに畜産経営者等からの輸出相談に応じるため輸出相談窓口の設置や畜産物輸出に対する理解醸成を図る活動を行い畜産経営の向上を支援しました。

家畜及び畜産物の安全性確保と理解醸成に関する事業（22事業）では、生産農場における飼養衛生管理の向上や家畜の伝染性疾病の清浄化、疾病の発生予防に向けた自主淘汰支援やワクチン接種費用の負担軽減、防疫演習、自衛防疫団体等が実施する予防注射に必要な衛生資材等についての支払事務等を実施しました。

また、豚熱（CSF）への対策として、野生イノシシ経口ワクチンの散布により、豚熱ウイルスの拡散防止を図る対策協議会の運営、養豚の生産性を阻害する豚繁殖・呼吸障害症候群（PRRS）の発生低減・排除を図るための指導獣医師と連携した検査と指導、馬の飼養衛生管理向上のための研修会等の開催、馬インフルエンザ等のワクチン接種の推進、農場HACCP、畜産GAPの構築支援や認証を推進する事業などを実施しました。このほか、畜産、地方競馬振興への消費者の理解を促進するために、牧場体験や畜産普及啓発等、イベントにおける広報活動などについて実施しました。

家畜の能力向上を促進する事業（18事業）では、家畜改良・増殖を促進する事業、家畜の改良成果を展示し優れた形質をもつ家畜を競い称える群馬県畜産共進会を全畜種において開催したほか、和牛については、遺伝子検査によるゲノミック評価を活用した早期の繁殖雌牛候補牛の能力把握を促進しました。また、中核的担い手の優良繁殖雌牛の増頭奨励金の交付、畜産クラスター計画に基づく増頭奨励金の交付のほか、育種価評価を解析し産肉能力向上を図る事業、肉用子牛の強化哺乳技術を活用した早期出荷を図る事業を実施しました。

このほか、乳牛、肉豚、緬山羊、養蜂の各畜種における生産振興に係る各種事業を実施しました。

畜産に関する収益等事業（6事業）、畜産の振興を図る事業（8事業）では、和牛、乳牛（ホルスタイン種、ジャージー種）、種豚、山羊（日本ザーネン種）の各家畜の血統登録を積極的に推進し、血統登録を行ったほか、県内の生産者等の団体からの事務を受託し、地域の畜産振興に努めるとともに、公益目的事業を実施するため

の財源として収益性の確保に努めました。

今後も、事業を継続して行うとともに、畜産を取り巻く中長期的な課題や実態を十分に踏まえて、飼養衛生管理、家畜衛生等を強化する事業に積極的に取り組むほか、国際化に対する畜産経営の確立と畜産経営の安定向上、及び安全で良質な畜産物の生産に貢献し、国民生活に不可欠な食料生産の安定的な供給に寄与して参ります。

() は補正時の事業数

会計区分		補助事業	助成事業	特別事業	受託事業	家畜登録	事務受託	自主事業	計
公益目的事業	公1(1)経営安定支援	2 (2)			1 (1)		1 (1)	3 (3)	7 (7)
	公1(2)経営向上支援	8 (8)		1 (1)	9 (8)			9 (9)	27 (26)
	公1(3)安全・理解	4 (4)	6 (6)		3 (4)			9 (8)	22 (22)
	公1(4)能力向上	8 (8)		6 (6)	2 (2)			2 (2)	18 (18)
	小計	22 (22)	6 (6)	7 (7)	15 (15)		1 (1)	23 (22)	74 (73)
収益等事業	収1(1)家畜登録					6 (6)			6 (6)
	他1(1)団体事務受託						8 (8)		8 (8)
	小計					6 (6)	8 (8)		14 (14)
合計		22 (22)	6 (6)	7 (7)	15 (15)	6 (6)	9 (9)	23 (22)	88 (87)

() は補正時の事業数

補助元等	補助事業	助成事業	特別事業	受託事業	家畜登録	事務受託	自主事業	計
農林水産省	3 (3)							3 (3)
群馬県	9 (9)							9 (9)
農畜産業振興機構	8 (8)			1 (1)				9 (9)
地方競馬全国協会	1 (1)							1 (1)
家畜登録団体					6 (6)			6 (6)
中央畜産会	1 (1)	5 (5)		8 (8)				14 (14)
その他団体		1 (1)		5 (5)				6 (6)
事務受託先						8 (8)		8 (8)
その他			6 (6)	1 (1)			4 (3)	11 (10)
自己資金			1 (1)			1 (1)	19 (19)	21 (21)
合計	22 (22)	6 (6)	7 (7)	15 (15)	6 (6)	9 (9)	23 (22)	88 (87)

2 令和5年度の会計状況について

令和5年度においては、補助事業22事業、助成事業6事業、特別事業7事業、受託事業15事業、家畜登録事業6事業、団体・生産者からの事務受託事業9事業、自主事業23事業の合計88事業を実施し、経常収益1,827,904千円、経常費用1,824,414千円、経常外収益・費用を含めた他会計振替前当期一般正味財産増減額は3,490千円の増加となりました。

これを前年度の実績額と比較しますと、経常収益は965,724千円の増加、経常費用は967,899千円が増加しました。経常収益の主な動きとしては、肉用子牛生産者補給金制度、及び肉用牛肥育経営安定交付金制度(牛マルキン)の発動が増えたことにより、受取補助金等が759,216千円増加した一方、各事業参加者から徴収し事業実施に要する経費に充てている手数料収益は568千円の減少、助成事業の実施に係る受取助成金は1,801千円の減少、家畜登録料から家畜改良を行うために徴収している賦課金収益は37

3千円の減少、事業参加者から負担金を徴収し実施する事業の受取負担金は6,585千円の減少となるなど、セーフティネット関連事業以外の事業全体収益は減少傾向となりました。

経常費用の主な動きとしては、事業費は966,702千円の増加、管理費は1,197千円の増加をしています。経常費用増加の多くを占めるのが、肉用子牛生産者補給金制度の補給金(47,683千円の増加)と肉用牛肥育経営安定交付金(牛マルキン)の肥育交付金の増加(923,819千円の増加)です。派遣職員の派遣料の上昇、再雇用者の退職に備え、管理部門に有資格者等の派遣職員配置、育児休業、時短勤務等からの復帰、正職員に対する緊急措置としての物価高騰対策への対応を行った結果、賃金(派遣料)は、事業費で8,663千円、管理費で928千円の増加、給与は、事業費で4,352千円、管理費で392千円が増加しました。

本会は、公益目的事業の割合が高いため、会計の性質上、経常収益、経常費用は平行に変動します。セーフティネット関連事業以外の事業全体は減少傾向にありますので、事業費を構成する旅費交通費(3,950千円減少)、通信運搬費(1,602千円減少)、消耗品費(4,098千円減少)、雑費(5,732千円減少)等は減少しました。併せて、人件費の増加抑制を図るため、事業費、管理費ともに更なる節減につとめました。当期指定正味財産増減額については、前年度に比べ、13,960千円減少しました。

主な理由としては、肉用子牛生産者補給金制度の事業参加頭数が減少(R04:10,310頭→R05:9,616頭)し、受取生産者積立金が444千円減少、発動に備え造成する基金に対する補助金(受取機構生産者積立金補助金)も889千円減少したこと、肉用牛肥育経営安定交付金制度(牛マルキン)の基金造成頭数が減少(R04:31,470頭→R05:24,074頭)し、受取生産者負担金が145,415千円減少したことです。

公益法人は、収益事業から得られる財産の増加を公益目的事業の実施に充て、さらに公益目的事業を拡大していくことを求められており、収益事業等会計から、その収益の一部の振替を行い公益目的事業を実施することとなります。

令和5年度においても、定められた方法に従い、公益目的事業の安定的な実施を図りました。

正味財産増減計算書

令和5年4月1日から令和6年3月31日まで

(単位:円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
特定資産運用益	[2,207,174]	[1,767,074]	[440,100]
受取会費	[15,265,000]	[15,265,000]	[]
事業収益	[97,206,825]	[113,529,190]	[△ 16,322,365]
受取補助金等	[1,259,922,458]	[500,708,620]	[759,213,838]
受取助成金	[24,963,277]	[26,765,199]	[△ 1,801,922]
受取受託金	[24,416,245]	[24,421,785]	[△ 5,540]
賦課金収益	[5,367,100]	[5,740,700]	[△ 373,600]
受取積立金	[2,820,000]	[3,155,000]	[△ 335,000]
受取生産者負担金	[365,024,837]	[134,029,654]	[230,995,183]
受取負担金	[26,259,192]	[32,845,144]	[△ 6,585,952]
受取寄付金	[1,086,710]	[473,756]	[612,954]
雑収益	[3,365,966]	[3,479,371]	[△ 113,405]
経常収益計	1,827,904,784	862,180,493	965,724,291
(2) 経常費用			
事業費	[1,817,787,829]	[851,085,663]	[966,702,166]
管理費	[6,626,553]	[5,428,973]	[1,197,580]
経常費用計	1,824,414,382	856,514,636	967,899,746
当期経常増減額	3,490,402	5,665,857	△ 2,175,455
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
受取生産者負担金	[]	[362,414,175]	[△ 362,414,175]
固定資産売却益	[]	[1,520,357]	[△ 1,520,357]
受取返還金	[5,882,377]	[1,357,400]	[4,524,977]
経常外収益計	5,882,377	365,291,932	△ 359,409,555
(2) 経常外費用			
支払返戻金	[]	[362,414,175]	[△ 362,414,175]
支払返還金	[5,882,377]	[1,357,400]	[4,524,977]
経常外費用計	5,882,377	363,771,575	△ 357,889,198
当期経常外増減額		1,520,357	△ 1,520,357
税引前当期一般正味財産増減額	3,490,402	7,186,214	△ 3,695,812
法人税、住民税及び事業税	1,110,100	2,916,800	△ 1,806,700
当期一般正味財産増減額	2,380,302	4,269,414	△ 1,889,112
一般正味財産期首残高	374,044,497	369,775,083	4,269,414
一般正味財産期末残高	376,424,799	374,044,497	2,380,302
II 指定正味財産増減の部			
受取補助金等	[13,000,200]	[13,889,600]	[△ 889,400]
受取積立金	[6,500,100]	[6,944,800]	[△ 444,700]
受取生産者負担金	[480,127,000]	[625,542,000]	[△ 145,415,000]
受取負担金	[]	[1,520,000]	[△ 1,520,000]
特定資産運用益	[1,521,066]	[1,598,421]	[△ 77,355]
一般正味財産への振替額	[△ 372,379,665]	[△ 506,765,161]	[134,385,496]
当期指定正味財産増減額	128,768,701	142,729,660	△ 13,960,959
指定正味財産期首残高	1,554,014,129	1,411,284,469	142,729,660
指定正味財産期末残高	1,682,782,830	1,554,014,129	128,768,701
III 正味財産期末残高	2,059,207,629	1,928,058,626	131,149,003

令和6年度ブロック別支部長・審査員合同協議会及び審査研究会開催

令和6年5月23日に秋田県において、全国和牛登録協会主催のブロック別合同会議が開催され、本会からも3人の地方審査員資格保有職員が参加しました。

今年度の事業計画をはじめ、令和9年度に開催予定の第13回全国和牛能力共進会北海道大会の内容や登記・登録業務に係る事項について協議・報告を受けたほか、東部ブロック管内の審査員間の意見交換が行われました。

翌24日にはあきた総合家畜市場において、6頭の供試牛を使って審査研究会が行われました。審査研究会では、個人及び県単位で審査の回答提出を行い、その後中央審査員による模範解答が発表されましたが、参加者の審査結果にはややばらつきがあり、本研究会のように定期的な目合わせの必要性を実感しました。

今後の和牛登録業務において、今回の審査研究会で学んだことを参考に適正な審査を心がけていきます。



研究会で挨拶をする全国和牛登録協会の工藤事務局長



北海道の岸中央審査員による審査講評

令和6年度群馬県学校農業クラブ連盟主催 家畜審査競技大会の開催

令和6年6月11日、令和6年度群馬県学校農業クラブ連盟 家畜審査競技大会・乳牛の部が開催されました。県内の農業関係7高校から104名の生徒が参加しました。

生徒らは5班に分かれて審査に挑みました。審査時間は成牛20分、育成牛10分で、成牛4頭の総合序列と審査項目3箇所の序列付け、育成牛4頭の総合序列の審査を行いました。また、審査競技大会終了後に審査員による模範審査を実施し、判断の仕方について確認する場が設けられました。

審査の結果、最優秀賞1名、優秀賞12名が表彰され、最優秀賞は吾妻中央高校の飯塚姫奈乃さんが受賞しました。最優秀賞受賞者は10月に岩手県で開催される全国大会へ出場することになります。全国大会でも優秀な成績が収められることを期待しております。



家畜審査競技大会の様子



審査員による模範審査の様子

令和6年度前期乳牛体型調査・牛群審査について

5月13日(月)～6月3日(月)にわたり、(一社)日本ホルスタイン登録協会審査員塩野雅一氏によって、令和6年度前期体型調査・牛群審査が行われました。

今回は、牛群審査182頭(内:雄2頭)、奨励審査44頭、体型調査444頭、SNP審査161頭、ジャージー種1頭計53戸のご協力により、832頭を審査・調査をさせていただきました。ホルスタイン種における85点以上のペリーグッド牛が199頭(60%)、90点以上のエクセレント牛が21頭(6%)と、高得点牛が多く輩出されました。また、調査の平均得点は82.3点で昨年より0.2ポイント上昇しました。

第28回群馬県畜産共進会の案内

◆第28回群馬県畜産共進会について

家畜の改良増殖を図り、畜産振興に寄与することを目的に第28回群馬県畜産共進会を下記のとおり予定しています。詳細は本会HPをご覧ください。 <https://chikusankyokai.or.jp/>

畜種	日時	場所
山羊の部	令和6年 8月23日(金)	全国農業協同組合連合会群馬県本部渋川家畜市場
繁殖和牛の部	令和6年10月23日(水)	群馬県畜産試験場内
乳牛の部	令和6年10月25日(金)	群馬県畜産試験場内

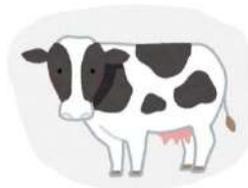
2024 セントラルジャパンホルスタインショウについて

2024 セントラルジャパンホルスタインショウが、令和6年4月26日(金)～27日(土)に、静岡県御殿場市馬術スポーツセンターにて開催されました。本県からは25頭出品されました。

結果は、第9部の(株)長坂牧場出品の「ラブリーファーム クインジス ドアマン」が最高位のグランドチャンピオンを受賞、齊藤将聡氏が出品の第3部の「ジヤグロブリツジ ユニークマン サラ」がジュニアチャンピオン、吾妻中央高校の最優秀学校賞をはじめ、14部中8部でチャンピオンを受賞するなど好成績を収め、日頃の体型、資質等の改良成果が発揮されました。

各部のチャンピオン

第1部	吾妻中央高校
第3部	齊藤 将聡
第5部	三輪 圭吾
第6部	吾妻中央高校
第8部	三輪 圭吾
第9部	株式会社 長坂牧場
第11部	株式会社 長坂牧場
第13部	齊藤 将聡



群馬県的主要成績

グランドチャンピオン	第9部	株式会社 長坂牧場
ジュニアチャンピオン	第3部	齊藤 将聡
R ジュニアチャンピオン	第1部	吾妻中央高校
インターミディエイトチャンピオン	第9部	株式会社 長坂牧場
R インターミディエイトチャンピオン	第8部	三輪 圭吾
R シニアチャンピオン	第11部	株式会社 長坂牧場

グランドチャンピオン牛(株)長坂牧場

ヤギの巡回登録について

今年も、6月12日（水）～7月8日（月）にわたり、山羊の登録巡回を実施しました。

8戸の飼養者を訪問し、今年の2月から4月に生まれた39頭（♀27頭、♂12頭）の子山羊の登録をしました。今年度の登録頭数は、昨年度の65頭と比較して大幅に減少しましたが、発達がよく、8月23日（金）に開催する第28回群馬県畜産共進会（山羊の部）における審査が楽しみになるような山羊が多い印象でした。共進会の後には、付帯行事として種山羊交換会（競り）が行われます。

登録山羊のみが出品される全国的にも珍しいイベントですので、一層盛り上げていきたいと思っております。



（写真）桐生市黒保根村で山羊を飼養する松本恒春さん

松本さんの山羊は山中に放牧されているので、強健性に優れています。

とても元気に走り回っていたため、起立姿勢の写真がうまく撮れませんでした。ごめんなさい。



山羊の視察研修について

毎年、乳用種である日本ザーネン種の登録山羊のみが出品される共進会を開催しています。こうした共進会は、群馬県、長野県の2県でしか行われていません。群馬県における山羊改良の歴史は古く、種山羊共励会は1959年から開催されてきました。長きに渡り、山羊の生産基盤が培われてきた群馬県ですが、山羊乳の活用事例が少なく、その成果を一般消費者に届けづらいというのが現状です。一方、今後、「エコ」と「健康」に関する消費者の意識の高まりを受け、飼養形態が自給型であり、高栄養といわれる山羊乳への需要が高まるものと考えられます。

そこで、群馬県内における山羊乳の活用と消費者への提供について検討をすることを目的に、先進事例の視察を行いました。視察先である株式会社デーリーファーム富士山（栃木県大田原市）の代表・高橋雄幸、ゆかり夫妻が作るチーズは、国内外で数々の賞を受賞しており、2019年には、山羊チーズ「茶臼岳」がJAL国際線ファーストクラスの機内食にも採用されました。日EU・EPAでナチュラルチーズの関税が撤廃されることを視野に入れ、牛と山羊を放牧育成し、その土地の牧草、地域の副産物を給餌することで、その生乳から製造されるチーズの味を差別化することが、今後の営農の存続に重要であるという考えからそれまで勤務していた那須町の牧場から独立し、同法人を設立しました。視察では、山羊の飼養管理から山羊乳の生産・加工・流通の現状や課題について、幅広くお話しを伺いました。

山羊は1頭当りの搾乳量が少なく、産乳量が季節性に制約されるため、山羊乳製品は牛乳製品と比較して、販売価格が高くなってしまいます。そのため、加工をして賞味期間を延ばすとともに付加価値をつけることが重要になります。しかし、そのためには高額な設備投資が必要であり、「ひとつのチーズを作るようになるまで5～10年かかる」と言われるように、技術の習得にも時間を要します。

株式会社デーリーファーム富士山では、既存の施設の利用、製造するチーズの種類工夫等を通じて課題の解決を図るとともに、SNSを通じた情報発信にも力を入れていました。

今回の視察で得た知見を活かして、県内における山羊乳の生産活用の可能性や方向性について検討していきたいと思っております。



写真：栃木県酪農業協同組合のクールステーションを改修して作られたチーズ工房およびチーズ販売所



国際養鶏養豚総合展（IPPS）2024について

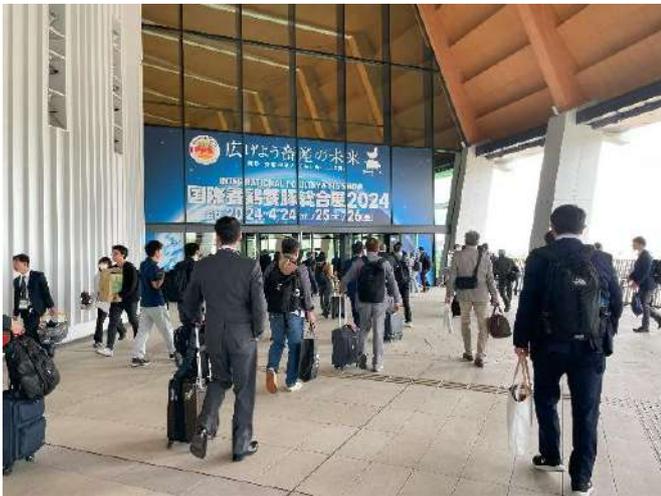
4/24（水）～26（金）の3日間にかけて、「国際養鶏養豚総合展（IPPS）2024」が愛知県名古屋市のポートメッセなごや第1展示館で開催されました。

『広げよう畜産の未来～養鶏・養豚産業の未来を動かす3日間～』をテーマとして掲げた、国内最大規模の「養鶏・養豚産業」に特化した展示会になります。

1992年に第1回目が開催され、記念すべき10回目の開催であり、養鶏・養豚経営等の近代化・効率化を目的に、採卵鶏・肉用鶏・肉豚等の生産から流通に関する世界最先端かつ最新鋭の施設・機械器具・資材・技術が一堂に集まりました。

出展者は、施設・機械・資材関係とフードコーナーなどを合わせて出展社数216社・団体、3日間の延入場者数は23,298人と、例年以上の賑わいを見せました。会場の一部には特別企画ゾーンが設置され、スマート畜産に関する機器や技術を紹介する「スマート畜産ゾーン」、家畜衛生やさまざまなウイルス対策に効果的な製品や機器を集めた「衛生対策ゾーン」に加えて、今回から環境に配慮した施設・機械・成果を紹介する「SDGsゾーン」が設けられ、展示・紹介されました。また、フードコーナーは畜産物の試食、販売などが行われ、大盛況でした。

本会としても3日間で8名の職員が出席。国内外の養鶏・養豚に関する施設や機器、及び環境対策メーカーの展示を視察し、経営支援に係る情報提供等の研鑽を図ることができました。（次回の開催は3年後の2027年を予定しています）



ポートメッセなごや 会場入り口



IPPS 入場エントランス



展示された機械の様子（鶏卵）



特別講演の様子（アニマルウェルフェア）

群馬県養鶏協会たまごフェスタ2024を開催

群馬県養鶏協会事業の活動として、「たまごフェスタ2024」（群馬県養鶏協会たまごフェスタ実行委員会）を、令和6年6月16日（日）10時00分より群馬県庁1階県民ホールで開催しました。

この活動は、会員有志が発起人となり、鶏卵への理解醸成を図るため、各ブースにて卵かけご飯実食、銘柄卵即売、たまご講演会、ひよこと遊ぼう及びぐんまちゃんとお×クイズ等、11か所のブースで多数のご来場者の方々が各卵競技等に参加しました。

今年で通算8回目、養鶏関係企業の特別協賛や職員のご協力をいただきありがとうございました。



養鶏農家さんの卵スイーツ即売



ぐんまちゃんのお×クイズ



ゆで卵カラむき実食イベント



ひよこと遊ぼうテレビ取材の様子



たまごフェスタ当日の来場の様子

事業統括の紹介

事業統括（管理）羽鳥正子です。管理では全職員を対象とした職場研修を企画しています。今年度は外部講師研修2回、視察研修2回、内部研修3回程度実施予定。研修内容は業務に関する知識の向上、ビジネスマナー、多様な働き方など。研修をとおして組織の一員としてのマネジメントに必要なスキルなどを習得し、効率的に業務を遂行することができる！ことを目指しています。コミュニケーション力を高めて、関係者皆様と円滑に事業を展開し、協会の事業目標達成に努めてまいりますので、今年度もどうぞよろしくお願いいたします。

事業統括（肉用牛）の中村俊治です。昨年度から引き続きよろしくお願いいたします。

私が統括する事業のうち主たるものは、子牛補給金制度や牛マルキン、クラスター機械導入関係、畜特資金等借入者を含めた経営支援、和牛登録全般、令和9年度北海道で開催となる和牛全共に向けた出品対策、農場HACCP認証制度の推進、繁殖雌牛更新加速化事業などです。どの事業も本会単独では実施できないものばかりです。関係機関の皆様と連携を取りながら円滑な事業実施を図り県内畜産経営者の経営安定、ひいては畜産物の安定供給に資したいと考えております。今後とも、よろしくお願いいたします。

事業統括（酪農中小家畜）の保坂扶砂与です。

酪農中小家畜部門での今年度の新規事業としては、令和7年10月に北海道にて開催される第16回全日本ホルスタイン共進会に向けて出品対策委員会を立ち上げ、関係機関・団体等と協力して、円滑な出品を図るための事業を実施します。また、県内で飼養されている山羊から生産される山羊乳を活用し、消費者に提供する可能性および方法について調査・検討を行う事業を実施します。その他、乳牛、豚、山羊の登録および生産振興、酪農ヘルパーの支援、畜産人材の確保育成、家畜衛生対策に関する事業等については、引き続き実施してまいりますので、今年度もどうぞよろしくお願いいたします。

価格安定事業の発動状況

◆肉用子牛生産者補給金制度 補給金交付状況

区分	年次	月次	期別	平均売買価格(円)					交付単価(円)					交付額(円)				
				黒毛	褐毛	他肉	乳用	交雑	黒毛	褐毛	他肉	乳用	交雑	黒毛	褐毛	他肉	乳用	交雑
7	6	1 ~ 3	第4四半期	562,200	585,300	232,100	173,600	347,700	0	0	90,510	0	0	0	0	-	0	0
		4 ~ 6	第1四半期	541,400	606,100	-	177,500	318,500	22,600	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		7 ~ 9	第2四半期															
		10 ~ 12	第3四半期															
計				※他肉（その他肉専用種）はR2年度より算定期間が1年（4月～3月）となりました。														

◆肉用牛肥育経営安定交付金制度（牛マルキン） 交付金交付状況

期間	品種区分	納付区分	支払区分	交付対象		交付金の額			交付日
				人数 (人)	頭数 (頭)	(円) (4/4)	交付金として 支払う額(3/4)	積立金から 支払われる額(1/4)	
4月期	肉専用種	通常	概算払	/	1,114	93,888,660	70,416,465	23,472,195	概算払日 令和6年 6月26日
		計		76	1,114	93,888,660	70,416,465	23,472,195	
	交雑種	通常	概算払	/	0	0	0	0	
		計		0	0	0	0		
	乳用種	通常	概算払	/	13	158,314	118,735	39,579	
		計		3	13	158,314	118,735	39,579	
	小計	通常	概算払	/	1,127	94,046,974	70,535,200	23,511,774	
		計		79	1,127	94,046,974	70,535,200	23,511,774	

◆肉豚経営安定交付金制度（豚マルキン） 交付金単価について

算出期間	令和6年4月から6月まで
肉豚1頭当たりの標準的販売価格	47,101 円/頭
肉豚1頭当たりの標準的生産費	42,777 円/頭
肉豚1頭当たりの交付金単価	—

市況

和牛子牛市場成績【JA全農ぐんま渋川家畜市場】

開催月	性別	取引頭数	高値(円)	安値(円)	平均価格(円)	平均体重(kg)	平均日齢(日)	Kg単価(円)
6	雌	102	3,470,500	17,600	544,003	298	298	1,821
	雄							
	去勢	158	946,000	232,100	631,413	343	295	1,840
	合計	260			597,122	325	296	1,833

開催月	性別	取引頭数	高値(円)	安値(円)	平均価格(円)	平均体重(kg)	平均日齢(日)	Kg単価(円)
7	雌	92	1,045,000	199,100	448,513	305	296	1,466
	去勢	145	949,300	165,000	628,456	342	291	1,836
	合計	237	1,045,000	165,000	558,605	328	293	1,702

乳用牛市場成績

開催月	畜種区分	授精区分	腹子品種	頭数(頭)	平均体重(kg)	平均価格(円)
5	未経産	AI	ホルス	29	269	242,586
			交雑種	5	499	344,000
	初妊	ET	和牛	79	547	457,165
			IVF	20	541	589,350
			IVF	2	535	587,500
	経産	AI	ホルス	36	580	323,278
			交雑種	13	641	308,077
		IVF	交雑種	51	671	300,706
			IVF	2	664	385,500
	合計			237	549	377,987

前橋家畜市場取引結果【群馬県家畜商業協同組合】

開催日 令和6年6月1日～6月30日

品種	区分	性別	売買頭数	最高値(円)	最低値(円)	平均(円)	平均体重(kg)
和牛	子牛	メス	144	547,800	110,000	331,375	152
		オス	240	834,900	88,000	441,673	168
	スモール	メス	1	275,000	275,000	275,000	106
交雑種	子牛	メス	49	371,800	42,900	258,500	279
		オス	5	372,900	249,700	295,900	161
	スモール	メス	347	360,800	1,210	207,203	85
		オス	422	363,000	2,200	248,554	90
乳牛	子牛	メス	5	172,700	16,500	117,040	117
		オス	2	162,800	125,400	144,100	93
	スモール	メス	6	121,000	24,200	62,333	67
		オス	105	207,900	220	140,175	77

